



協同組合の役員・委員に選ばれ、宣誓文を読み上げる

子どもの協同組合の新たな1年

<路上の子どもたちの事業：担当職員からのレポート>

マニラ事務所で路上の子どもたちの事業を担当している岩下です。路上の子ども・若者の協同組合「Kalye (カリエ)」は、設立から2年を迎えました。現在72名が所属しており、設立前から続けてきたパン作りの技術訓練のほか、昨年からは、カフェのオープンに向けたビジネスマナー研修なども行っています。

6月12日、この1年間の活動を振り返り、次の一年について考える年次総会を開催しました。

まず、品質管理委員のローレンから、パン作りに関して起きた問題の一つとして、「パンの大きさや形が一定でないなど、質の悪いパンがあった」ということが報告されました。これを受けて、「より質の良いパンを作り続けるために」というテーマで話し合い、「材料を使う前に、その種類や量が適切かを確認する」、「パン製作者として何をすべきか、共通認識を持つ」ことなどを改めて皆で共有しました。

次に、教育委員の4名が、この1年で行った研修のリストを示して出席者とともに内容を振り返り、今後必要な研修について意見交換をしました。エルシーは、「カフェやビジネスをするためにどうやってお金を運用するかを学ぶことができる」という理由で、「起業家精神」や「マネジメント」を、リカは「パンを多く売るためには、何が売れるかを知る必要がある」という理由で「マーケティング」を挙げました。その後、取締役会のサミュエルが、自分たちのビジネスを成長させるための計画案を提示しました。そして、「より質の高いパンを作り、売上を伸ばす」「パンフレットやチラシなど、広告にもっと力を入れる」「会計と品質管理を一層改善する」ことなど、次の1年に向けた更なる活動を皆で確認しました。

全ての議題を終えた後、次の1年間の活動を中心になって担う取締役会や各委員会メンバーを選挙で選出しました。選ばれたメンバーが壇上に立ち、宣誓式を行いました。そのうちの一人、アーネルは、「投票ありがとうございました。初めて選ばれてとても嬉しいです。うまく運営できるよう頑張ります。」と述べました。最後に、皆で宣誓文を読み上げて総会を終えました。

今年度は、JICA 草の根技術協力事業(5ヵ年)の最終年度であり、その後はカリエがアイキャンの手を離れて活動していくこととなります。カリエが自ら活動を継続していけるよう、新しい役員・委員をはじめとしたメンバーを中心とした活動を、しっかりと見守っていきます。



ICAN マニラ事務所
岩下奈未 (いわしたなみ)
～プロフィール～

1988年生まれ。九州大学21世紀プログラム卒業。総合化学メーカー海外営業、ICAN 紛争地の子ども事業プロジェクトマネージャー補佐を経て、現担当。

Project Site

<特集>

①ケソン市



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

①ごみ処分場周辺の子どもたち(ケソン)

チームビルディングの活動での変化



フェアトレード生産者団体 SPNP の5名に、チームビルディングのワークショップを行いました。ごみ処分場周辺の立ち退きや病気によるメンバーの減少で、重い空気が続いていた SPNP ですが、スタッフの話と、協働作業を行うワークで一転し、皆が笑顔になりました。ピビアンさん(57歳)は、「考え方がポジティブになれた。これからは皆と一緒に製作を頑張りたい」と語りました。(6月18日)

②先住民の子どもたち(マライバライ)

頂いた学用品を大切に



2つの学校の先住民の児童、計515名に、日本の企業からお預かりした学用品(鉛筆、ノート、消しゴム等)を届けました。それまで、数本の鉛筆や数枚の紙しか持っていなかった子どもたちですが、これで授業の板書や宿題に取り組みやすくなります。クリスチャン君(8歳)は、「もらった学用品を大切に使います。全てに自分の名前を書いておきます」と話しました。(6月23日・25日)

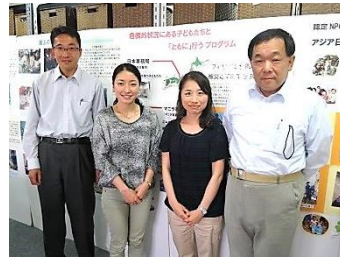
今月の ICAN を増やす活動

国際理解教育事業

6月10日/名古屋

スーパーグローバルハイスクールとの連携

文部科学省指定の「スーパーグローバルハイスクール」である、長野県上田高等学校の先生2名が、今後の連携に関する打合せにいられました。今年3月に同校の11名が参加したスタディツアーでの経験を踏まえ、同校の理念に沿った研修の企画・立案を希望されました。引き続き先生方と協議を重ね、より良いものを作り上げていきます。



MY アイキャン事業

6月20日/名古屋

笑顔でお礼を

マニラの路上の子どもの保護施設「子どもの家」の建設・運営寄付を呼び掛けるため、15名のボランティアとともに街頭募金を行いました。参加した高校生のKさんは、「最初は恥ずかしかったが、頑張っってねと言ってくれる人もいて嬉しかった。笑顔でありがとうございますということが大切だと思った。」と感想を述べました。



今月の Topics



NGO 相談員事業において、4件の出張サービスを実施

外務省より受託している「NGO相談員」として、6月は下記4件の出張サービス(講演等)を行いました。

6月3日 青年海外協力隊平成27年1次隊(JICA二本松訓練所)

6月15日 静岡文化芸術大学

6月18日 JICA 中部国際協力推進員会議

6月19日 国士舘大学

今月の Media

新聞等に4件掲載されました!

6月 JPF NEWS Vol.14 ICANの活動概要と台風ハグピートへの救援活動

6月1日 ボラみみ6月号 名古屋高校生国際ボランティア団体「どえりゃあWings」が路上の子どもの保護施設建設へ寄付

6月1日 THE FRONTIER TIMES (名古屋国際中学校高等学校広報誌) フェアトレードにおけるアイキャンとの連携

6月3日 中日新聞(朝刊)名古屋市民版 レイテ島に建設した12校の学校での合同引渡し式典

今月の ICAN なる

◎武内さん、想いのこもったメッセージをありがとうございました!

マンスリーパートナー 武内加奈さん

「出会った子どもたちに恥ずかしくないように」

インタビュー:6月20日

私は、ボランティア情報誌でアイキャンを見つけ、なんとなく「ここ楽しそう!」と思ったのがきっかけで、日本事務局でのボランティアを始めました。定期的に、翻訳のお手伝いや書き損じハガキのカウント作業をしているうちに、私がしている活動が誰のためなのか、自分の目で確かめてみたくなり、スタディツアーに参加することを決めました。

ツアーでは、目・耳・鼻・口・手・心の6感を使って感じたことがたくさんありました。温かいお母さんたちや子どもたちとの出会いや楽しいこともたくさんありましたが、私にとっては目をそむけたいような場面も多くありました。帰国してからも、あの子たち、今どこで何をしているのかな、今日のはちゃんご飯を食べているのかなって考えたら、もどかしくて涙が出る日々が続きました。でも、その時の気持ちや貴重な体験を、友達や家族、大切な人に伝えたい、出会った子どもたちに恥ずかしくないように、まずは日本で活動を頑張ろう!と思えるようになりました。

今は、ツアーで出会った意識の高い仲間や、アイキャンボランティアの先輩方と、「WE CANなこと」を探そう!と定期的にミーティングをし、ポスター作成や今後の活動について話し合ったりしています。まだちっぽけな活動ですが、フィリピンで出会った人たちやアイキャンのスタッフの方と一緒に、私も成長していきたいと考えています。

